

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2019年5月28日から2022年1月21日まで
運用方針	マザーファンドへの投資を通じて、主に世界の企業が発行する高利回り社債に投資することにより、高水準のインカムゲインの確保と信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。
主要投資対象	当ファンドは以下のマザーファンドを主要投資対象とします。 世界SDGsハイインカム・マザーファンド 世界の企業が発行する高利回り社債
当ファンドの運用方法	■マザーファンドへの投資を通じて、主に世界の企業が発行する高利回り社債を中心に実質的に投資することにより、高水準のインカムゲインの確保と信託財産の成長を目指します。 ■マザーファンドにおいて米ドル建て以外の債券等へ投資する場合は、対米ドルで為替取引を行い、実質的に米ドル建てとすることを基本とします。 ■「為替ヘッジなし」では、原則として対円での為替ヘッジを行いません。 ■銘柄の選定にあたっては、発行体のSDGsへの貢献度に加え、信用力などのファンダメンタルズ、バリュエーションおよび流動性等を勘案します。 ■実質的な運用はロベコ・インスティテューショナル・アセット・マネジメント・ビー・ヴィが行います。
組入制限	当ファンド ■株式への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ■外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。 世界SDGsハイインカム・マザーファンド ■株式への投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ■外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
分配方針	■年2回（原則として毎年2月および8月の10日。休業日の場合は翌営業日）決算を行い、分配金額を決定します。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益（評価損益を含みます。）等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払およびその金額について保証するものではありません。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">資産成長型は複利効果による信託財産の成長を優先するため、分配を極力抑制します。 (基準価額水準、市況動向等によっては変更する場合があります。)</div>

世界SDGsハイインカム・ファンド (為替ヘッジなし 資産成長型) 【繰上償還 運用報告書(全体版)】

(2021年8月11日から2022年1月21日まで)

第 **6** 期
償還日 2022年1月21日

受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドはマザーファンドへの投資を通じて、主に世界の企業が発行する高利回り社債に投資することにより、高水準のインカムゲインの確保と信託財産の成長を図ることを目的として運用を行いました。ここに当期の運用状況等をご報告いたします。

皆さまのご愛顧ありがとうございました。



三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1

<https://www.smd-am.co.jp>

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ

お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976

受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

世界SDGsハイインカム・ファンド（為替ヘッジなし 資産成長型）

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

■ 最近5期の運用実績

決算期	基準価額			(参考指数) ブルームバーグ・ グローバル・ハイイールド 社債インデックス (米ドルヘッジ、円換算)	公社債 組入比率	純資産額
	(分配落)	税金 分配	期中 騰落 中率			
	円	円	%		%	百万円
2期 (2020年2月10日)	10,779	0	8.9	107.18	9.3	328
3期 (2020年8月11日)	10,347	0	△4.0	103.79	△3.2	297
4期 (2021年2月10日)	10,665	0	3.1	109.43	5.4	253
5期 (2021年8月10日)	11,345	0	6.4	117.95	7.8	123
(償還日)	(償還価額)					
6期 (2022年1月21日)	11,591.14	0	2.2	120.73	2.4	74

※基準価額の騰落率は分配金込み。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

※参考指数は、当報告書作成時に知りえた情報をもとに当社が独自に計算し、設定時を100として、指数化しています。なお、基準価額の反映を考慮した日付の値を使用しています。

※指数の著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

※参考指数は市場の動きを示す目的で記載しており、当ファンドが当該参考指数を意識して運用しているわけではありません。

■ 当期中の基準価額と市況等の推移

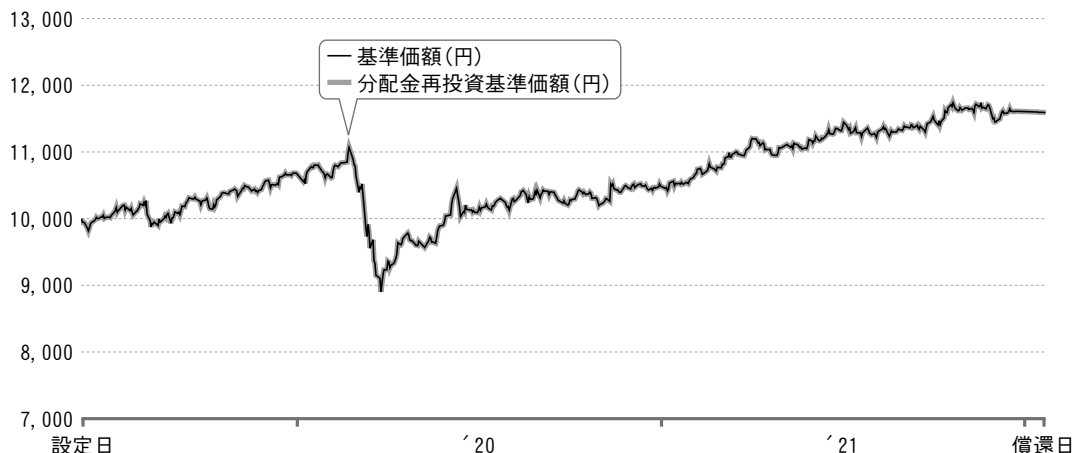
年月日	基準価額		(参考指数) ブルームバーグ・ グローバル・ハイイールド 社債インデックス (米ドルヘッジ、円換算)	公社債 組入比率
	騰落率	騰落率		
(期首)	円	%		%
2021年8月10日	11,345	—	117.95	95.0
8月末	11,351	0.1	118.11	96.5
9月末	11,533	1.7	120.07	93.2
10月末	11,626	2.5	121.28	93.6
11月末	11,511	1.5	120.37	96.0
12月末	11,606	2.3	123.39	—
(償還日)	(償還価額)			
2022年1月21日	11,591.14	2.2	120.73	—

※騰落率は期首比です。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

設定以来の運用状況(設定日(2019年5月28日)から償還日(2022年1月21日)まで)

設定以来の基準価額の推移



前期までの運用の概略(設定日(2019年5月28日)から第5期末(2021年8月10日)まで)

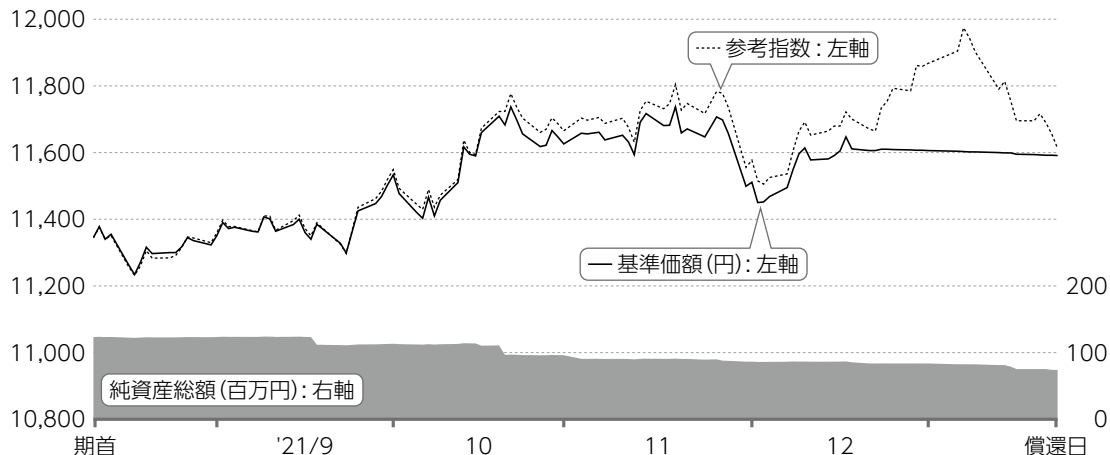
当ファンドは、世界SDGsハイインカム・マザーファンドへの投資を通じて、主に世界の企業が発行する高利回り社債に投資を行いました。

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイイールド社債のスプレッドが縮小したこと ・個別では、米国の動画配信大手であるNetflixが、好業績により投資適格に格上げされたこともあり、社債価格が上昇したこと ・為替が、米ドル高・円安となったこと
下落要因	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響による多くのイベントの中止により、米国のスポーツ放映権を保有しているDiamond Sportsの社債価格が下落したこと

1 運用経過

基準価額等の推移について（2021年8月11日から2022年1月21日まで）

基準価額等の推移



※参考指数は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期首	11,345円
償還日	11,591円14銭
騰落率	+2.2%

※当ファンドの参考指数は、ブルームバーグ・グローバル・ハイイールド社債インデックス（米ドルヘッジ、円換算）です。

※指数の著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

基準価額の主な変動要因（2021年8月11日から2022年1月21日まで）

当ファンドは、世界SDGsハイインカム・マザーファンドへの投資を通じて、主に世界の企業が発行する高利回り社債に投資を行いました。

上昇要因

- 新型コロナウイルスのまん延で通常の患者数が減る逆風下でも堅調な業績となったことにより、米国の病院運営持ち株会社であるHCA Inc.の社債価格が上昇したこと
- 為替が米ドル高・円安となったこと

下落要因

- 新型コロナウイルスの影響による多くのイベントの中止により、米国のスポーツ放映権を保有しているDiamond Sportsの社債価格が下落したこと

投資環境について（2021年8月11日から2022年1月21日まで）

グローバル・ハイイールド社債市場はやや下落しました。為替市場は、円安となりました。

グローバル・ハイイールド社債市場

新型コロナウイルスのオミクロン型による感染拡大への懸念から投資家のリスク・オフ（リスク回避）がみられたものの、その重症化リスクは当初懸念されていたほどではないという認識が広がりました。

スプレッド（国債に対する上乗せ金利）は横ばいでした。

為替市場

期間末の米ドル・円は、期間の初めと比較して円安となりました。

世界的な景気回復への期待の高まりや、米国の金融政策正常化の前倒し観測により日米の金利差が意識されたことなどから、対米ドルで円安となりました。

ポートフォリオについて（2021年8月11日から2022年1月21日まで）

当ファンド

主要投資対象である世界SDGsハイインカム・マザーファンドを高位に組み入れました。

世界SDGsハイインカム・マザーファンド

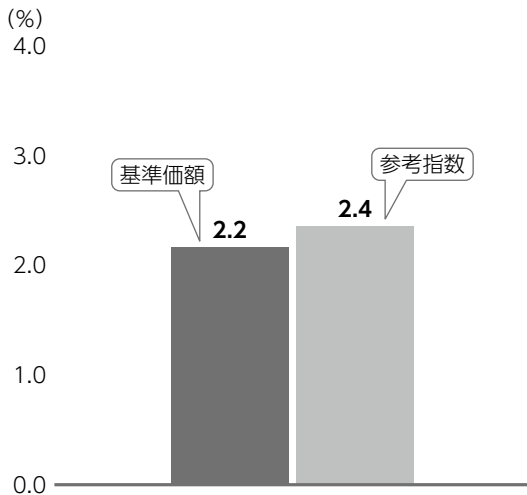
バリュエーション（投資価値評価）等をふまえて、ポートフォリオのベータ（市場リターンへの感応度）を1未満としました。

質の高いハイイールド社債を中心とした保守的なポートフォリオを維持して、SDGsの観点からエネルギーなどのセクターをアンダーウェイトとしました。

償還に向けて、2021年12月中に保有銘柄をすべて売却しました。

ベンチマークとの差異について（2021年8月11日から2022年1月21日まで）

基準価額と参考指数の騰落率対比



※基準価額は分配金再投資ベース

当ファンドは運用の指標となるベンチマークはありませんが、参考指数としてブルームバーグ・グローバル・ハイイールド社債インデックス(米ドルヘッジ、円換算)を設けています。

左のグラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

分配金について（2021年8月11日から2022年1月21日まで）

償還のため、該当事項はございません。

2 今後の運用方針

償還のため、該当事項はございません。

3 お知らせ

約款変更について

該当事項はございません。

世界SDGsハイインカム・ファンド（為替ヘッジなし 資産成長型）

1万口当たりの費用明細（2021年8月11日から2022年1月21日まで）

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	86円	0.746%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×（経過日数／年日数） <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">期中の平均基準価額は11,526円です。</div>
（投信会社）	(44)	(0.385)	投信会社:ファンド運用の指図等の対価
（販売会社）	(40)	(0.346)	販売会社:交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(2)	(0.015)	受託会社:ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	－	－	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料:有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（株式）	(－)	(－)	
（先物・オプション）	(－)	(－)	
（投資信託証券）	(－)	(－)	
(c) 有価証券取引税	－	－	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税:有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（株式）	(－)	(－)	
（公社債）	(－)	(－)	
（投資信託証券）	(－)	(－)	
(d) その他費用	3	0.023	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（保管費用）	(1)	(0.012)	保管費用:海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送付金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(－)	(－)	監査費用:監査法人に支払うファンドの監査費用
（その他）	(1)	(0.011)	その他:信託事務の処理等に要するその他費用
合計	89	0.769	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

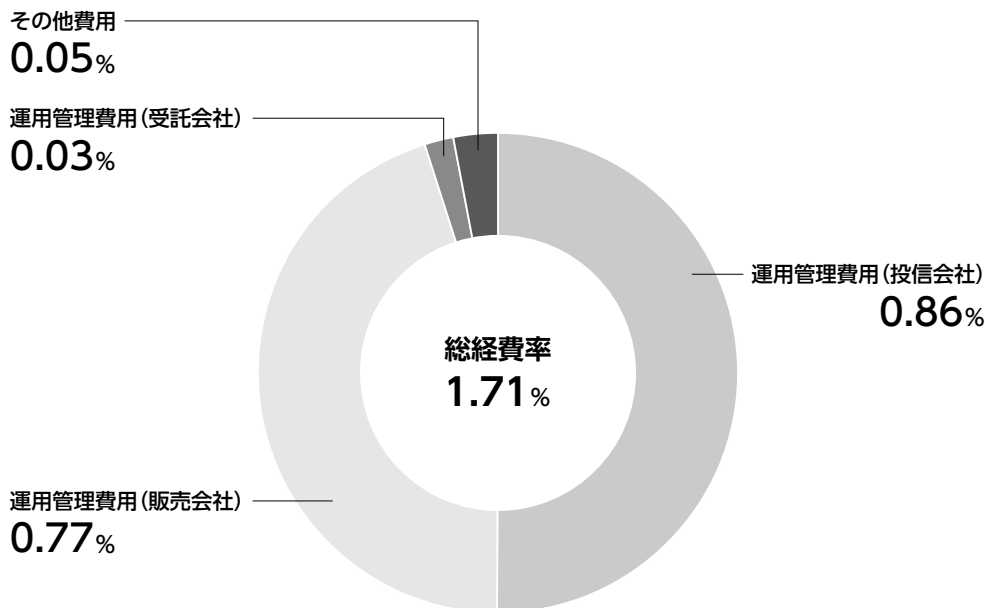
※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。



参考情報 総経費率(年率換算)



※各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

※各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。

※上記の前提条件で算出しているため、「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。なお、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率換算)は1.71%です。

■ 当期中の売買及び取引の状況（2021年8月11日から2022年1月21日まで）

親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
世界SDGsハイインカム・マザーファンド	千口 -	千円 -	千口 104,977	千円 126,631

■ 利害関係人との取引状況等（2021年8月11日から2022年1月21日まで）

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況
（2021年8月11日から2022年1月21日まで）

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細（2022年1月21日現在）

親投資信託残高

種 類	期 首(前期末)		期 末	
	口 数	金 額	口 数	評 価 額
世界SDGsハイインカム・マザーファンド	千口 104,977	千円 -	千口 -	千円 -

■ 投資信託財産の構成

（2022年1月21日現在）

項 目	期 末	
	評 価 額	比 率
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	千円 76,050	% 100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	76,050	100.0

■ 資産、負債、元本及び償還価額の状況

（2022年1月21日現在）

項 目	償 還 時
(A) 資 産	76,050,466円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	76,050,466
(B) 負 債	1,955,126
未 払 解 約 金	1,202,238
未 払 信 託 報 酬	752,378
未 払 利 息	510
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	74,095,340
元 本	63,924,101
償 還 差 損 益 金	10,171,239
(D) 受 益 権 総 口 数	63,924,101口
1万口当たり償還価額(C/D)	11,591円14銭

※当期における期首元本額108,716,954円、期中追加設定元本額0円、期中一部解約元本額44,792,853円です。

※上記表中の償還差損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額（元本の欠損）となります。

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり償還価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ 損益の状況

（自2021年8月11日 至2022年1月21日）

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 510円
支 払 利 息	△ 510
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	2,324,552
売 買 益	3,276,467
売 買 損	△ 951,915
(C) 信 託 報 酬 等	△ 752,378
(D) 当 期 損 益 金 (A + B + C)	1,571,664
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	7,764,391
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	835,184
(配 当 等 相 当 額)	(332,946)
(売 買 損 益 相 当 額)	(502,238)
(G) 合 計 (D + E + F)	10,171,239
償 還 差 損 益 金 (G)	10,171,239

※株式投信の信託報酬等には消費税等相当額が含まれており、公社債投信には内訳の一部に消費税等相当額が含まれています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※投資信託財産の運用の指図に係る権限の全部または一部を委託するため要する費用として、信託報酬の中から支弁している額は216,885円です。

■ 投資信託財産運用総括表

信 託 期 間	投資信託契約締結日	2019年5月28日		投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2022年1月21日		資 産 総 額	76,050,466円
区 分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減又は追加信託	負 債 総 額	1,955,126円
受益権口数	10,000,000口	63,924,101口	53,924,101口	純 資 産 総 額	74,095,340円
元 本 額	10,000,000円	63,924,101円	53,924,101円	受 益 権 口 数	63,924,101口
				1万口当たり償還金	11,591円14銭
毎計算期末の状況					
計 算 期	元 本 額	純 資 産 総 額	基 準 価 額	1万口当たり分配金	
				金 額	分 配 率
	円	円	円	円	%
第 1 期	276,547,396	273,732,122	9,898	0	0.00
第 2 期	305,012,980	328,764,646	10,779	0	0.00
第 3 期	287,427,780	297,396,514	10,347	0	0.00
第 4 期	237,813,245	253,628,571	10,665	0	0.00
第 5 期	108,716,954	123,342,401	11,345	0	0.00

上記のほか、投資信託財産の計算に関する規則第58条第1項各号に該当する事項はありません。

世界SDGsハイインカム・マザーファンド

第4期（2021年8月11日から2022年1月20日まで）

信託期間	2019年5月28日から2022年1月20日まで
運用方針	<ul style="list-style-type: none"> ■世界の企業が発行する高利回り社債を主要投資対象とします。 ■組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジは行いません。 ■運用指図にかかる権限をロベコ・インスティテューショナル・アセット・マネジメント・ピー・ヴィへ委託します。

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

■ 設定以来の運用実績

決算期	基準価額		(参考指数) ブルームバーグ・ グローバル・ハイイールド 社債インデックス (米ドルヘッジ、円換算)		公社比率	純総資産額
	期騰落	中率	期騰落	中率		
(設定日) 2019年5月28日	円 10,000	% —	100.00	% —	% —	百万円 1,000
1期(2019年8月13日)	9,930	△ 0.7	98.04	△ 2.0	95.4	1,685
2期(2020年8月11日)	10,546	6.2	103.79	5.9	96.6	1,924
3期(2021年8月10日)	11,743	11.4	117.95	13.6	95.0	1,530
(償還日) 4期(2022年1月20日)	(償還価額) 12,082.32	2.9	121.19	2.7	—	1,237

※参考指数は、当報告書作成時に知りえた情報をもとに当社が独自に計算し、設定時を100として、指数化しています。なお、基準価額の反映を考慮した日付の値を使用しています。

※指数の著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

※参考指数は市場の動きを示す目的で記載しており、当ファンドが当該参考指数を意識して運用しているわけではありません。

■ 当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		(参 考 指 数) フ ル ー ム バ ー グ ・ グ ロ ー バ ル ・ ハ イ イ ー ル ド ス 社 債 イ ン デ ッ ク ス (米ドルヘッジ、円換算)		公 組 入 比 債 率
		騰 落 率		騰 落 率	
(期 首) 2021年8月10日	円 11,743	% -	117.95	% -	% 95.0
8月末	11,760	0.1	118.11	0.1	96.4
9月末	11,960	1.8	120.07	1.8	93.0
10月末	12,073	2.8	121.28	2.8	93.2
11月末	11,971	1.9	120.37	2.0	95.3
12月末	12,085	2.9	123.39	4.6	-
(償 還 日) 2022年1月20日	(償還価額) 12,082.32	2.9	121.19	2.7	-

※騰落率は期首比です。

設定以来の運用状況(設定日(2019年5月28日)から償還日(2022年1月20日)まで)

設定以来の基準価額の推移



前期までの運用の概略(設定日(2019年5月28日)から第3期末(2021年8月10日)まで)

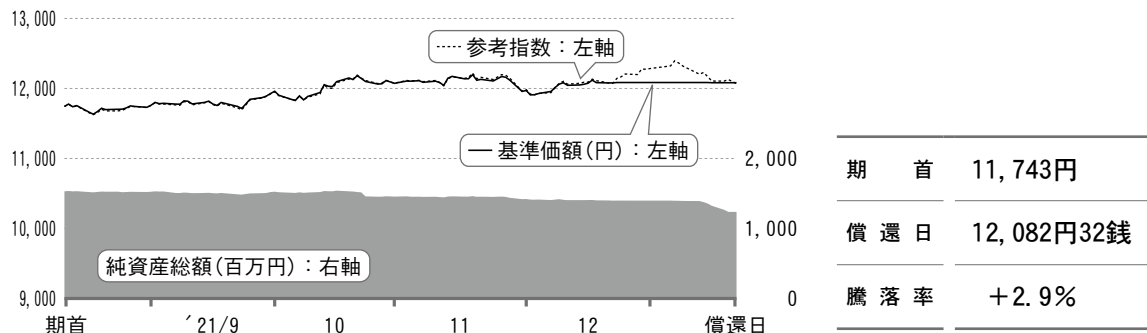
当ファンドは、主に世界の企業が発行する高利回り社債に投資を行いました。

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイイールド社債のスプレッドが縮小したこと ・個別では、米国の動画配信大手であるNetflixが、好業績により投資適格に格上げされたこともあり、社債価格が上昇したこと ・為替が、米ドル高・円安となったこと
下落要因	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響による多くのイベントの中止により、米国のスポーツ放映権を保有しているDiamond Sportsの社債価格が下落したこと

1 運用経過

▶ 基準価額等の推移について（2021年8月11日から2022年1月20日まで）

基準価額等の推移



※参考指数は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

※当ファンドの参考指数は、ブルームバーグ・グローバル・ハイイールド社債インデックス（米ドルヘッジ、円換算）です。

※指数の著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

▶ 基準価額の主な変動要因（2021年8月11日から2022年1月20日まで）

当ファンドは、主に世界の企業が発行する高利回り社債に投資を行いました。

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスのまん延で通常の患者数が減る逆風下でも堅調な業績となったことにより、米国の病院運営持ち株会社であるHCA Inc. の社債価格が上昇したこと ・為替が米ドル高・円安となったこと
下落要因	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響による多くのイベントの中止により、米国のスポーツ放映権を保有しているDiamond Sportsの社債価格が下落したこと

▶ **投資環境について（2021年8月11日から2022年1月20日まで）**

グローバル・ハイイールド社債市場はやや下落しました。為替市場は、円安となりました。

グローバル・ハイイールド社債市場

新型コロナウイルスのオミクロン型による感染拡大への懸念から投資家のリスク・オフ（リスク回避）がみられたものの、その重症化リスクは当初懸念されていたほどではないという認識が広がりました。

スプレッド（国債に対する上乗せ金利）は横ばいでした。

為替市場

期間末の米ドル・円は、期間の初めと比較して円安となりました。

世界的な景気回復への期待の高まりや、米国の金融政策正常化の前倒し観測により日米の金利差が意識されたことなどから、対米ドルで円安となりました。

▶ **ポートフォリオについて（2021年8月11日から2022年1月20日まで）**

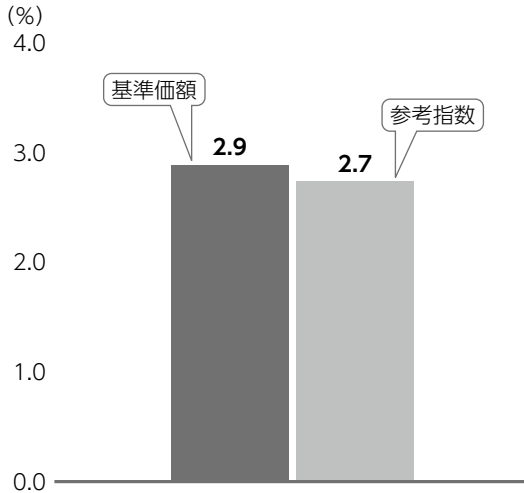
バリュエーション（投資価値評価）等をふまえて、ポートフォリオのベータ（市場リターンへの感応度）を1未満としました。

質の高いハイイールド社債を中心とした保守的なポートフォリオを維持して、SDGsの観点からエネルギーなどのセクターをアンダーウェイトとしました。

償還に向けて、2021年12月中に保有銘柄をすべて売却しました。

▶ ベンチマークとの差異について (2021年8月11日から2022年1月20日まで)

基準価額と参考指数の騰落率対比



当ファンドは運用の指標となるベンチマークはありませんが、参考指数としてブルームバーグ・グローバル・ハイイールド社債インデックス（米ドルヘッジ、円換算）を設けています。

左のグラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

2 今後の運用方針

償還のため、該当事項はございません。

■ 1万口当たりの費用明細 (2021年8月11日から2022年1月20日まで)

項 目	金 額	比 率	項 目 の 概 要
(a) そ の 他 費 用 (保 管 費 用)	5円 (4)	0.042% (0.031)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 保管費用：海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送入金・資産の移転等に要する費用 そ の 他：信託事務の処理等に要するその他費用
(そ の 他)	(1)	(0.012)	
合 計	5	0.042	

期中の平均基準価額は11,970円です。

※期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

■ 当期中の売買及び取引の状況 (2021年8月11日から2022年1月20日まで)

公社債

			買 付 額	売 付 額	
外	ア メ リ カ	社 債 券	千アメリカ・ドル	千アメリカ・ドル	
			262	9,004 (571)	
	イ ギ リ ス	社 債 券	千イギリス・ポンド	千イギリス・ポンド	
			—	108	
	ユ ー ロ	社 債 券	千ユーロ	千ユーロ	
			オ ラ ン ダ	—	300
			ベ ル ギ ー	—	96
			ル ク セ ン ブ ル グ	—	83
			フ ラ ン ス	98	416
			ド イ ツ	—	311
ス ペ イ ン			—	197	
イ タ リ ア			—	310	
オ ー ス ト リ ア			—	208	
国	そ の 他	社 債 券	—	1,047 (100)	

※金額は受渡し代金。（経過利子分は含まれておりません。）

※（ ）内は償還等による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

※社債券には新株予約権付社債（転換社債）は含まれておりません。

※管理上の都合により、一部の銘柄において属性が変わっている場合があります。

■ ■ 利害関係人との取引状況等 (2021年8月11日から2022年1月20日まで)

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ ■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況
(2021年8月11日から2022年1月20日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ ■ 組入れ資産の明細 (2022年1月20日現在)

償還日現在の組入れはありません。

■ ■ 投資信託財産の構成

(2022年1月20日現在)

項 目	期 末	
	評 価 額	比 率
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	1,237,102 千円	100.0 %
投 資 信 託 財 産 総 額	1,237,102	100.0

■ 資産、負債、元本及び償還価額の状況

(2022年1月20日現在)

項 目	償 還 時
(A) 資 産	1,237,102,375円
コール・ローン等	1,237,102,375
(B) 負 債	26,137
未払解約金	20,895
未払利息	2,189
その他未払費用	3,053
(C) 純資産総額(A-B)	1,237,076,238
元 本	1,023,873,208
償還差損益金	213,203,030
(D) 受益権総口数	1,023,873,208口
1万口当たり償還価額(C/D)	12,082円32銭

※当期における期首元本額1,303,665,396円、期中追加設定元本額8,026,346円、期中一部解約元本額287,818,534円です。

※上記表中の償還差損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額（元本の欠損）となります。

※期末における元本の内訳は以下の通りです。

世界SDGsハイインカム・ファンド（為替ヘッジあり 毎月分配型）	430,558,853円
世界SDGsハイインカム・ファンド（為替ヘッジなし 毎月分配型）	67,303,256円
世界SDGsハイインカム・ファンド（為替ヘッジあり 資産成長型）	463,123,403円
世界SDGsハイインカム・ファンド（為替ヘッジなし 資産成長型）	62,887,696円

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり償還価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ お知らせ

<約款変更について>

該当事項はございません。

■ 損益の状況

(自2021年8月11日 至2022年1月20日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	21,827,826円
受 取 利 息	21,877,683
そ の 他 収 益 金	7,586
支 払 利 息	△ 57,443
(B) 有価証券売買損益	22,216,188
売 買 益	55,697,289
売 買 損	△ 33,481,101
(C) そ の 他 費 用 等	△ 615,195
(D) 当期損益金(A+B+C)	43,428,819
(E) 前期繰越損益金	227,260,246
(F) 解約差損益金	△ 59,033,514
(G) 追加信託差損益金	1,547,479
(H) 合 計(D+E+F+G)	213,203,030
償 還 差 損 益 金(H)	213,203,030

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。